

## 第9回草津市総合計画策定プロジェクトチーム会議

日時：平成21年3月9日（月）

18時から

場所：501・502会議室

1 開会

2 議事

今後の政策研究について

3 閉会

資料

資料1：プロジェクトチーム会議の今後の政策研究について

## プロジェクトチーム会議の今後の政策研究について

- ミッションⅡ、Ⅲについて、2 グループに分かれて研究を行っていただきます。

### ミッションⅡ 主要プロジェクト研究

#### 1. 主要プロジェクトの位置づけについて（確認）

- 将来ビジョンを受け、構想期間において本市まちづくりを先導するプロジェクト。
- 係る分野の施策をすべて関連づけて推進し、同時に、施策間の相乗効果も期待する。行政分野の別によらず、横断的あるいは重点的な内容となる。
- 内容がまとまったタイミング次第で構想に含む可能性がある（できれば含みたい）

#### 2. 研究のステップ

##### （1）仮説の検証

##### （2）各プロジェクトのロードマップの作成

- ① 時期別の目標設定（短・中・長期）
- ② 各目標に対する施策の検討
- ③ 施策ごとの主体別の役割と成果指標の検討

……今年度検討範囲の目安

##### （3）中間報告書のまとめ（3月）

##### （4）最終報告書のまとめ（次年度）

(主要プロジェクトの仮説)

- 将来ビジョンを受け、構想期間において本市まちづくりを先導するプロジェクトとして、以下の仮説を整理した。

【仮説】

将来ビジョンとの基本的な対応関係	高いところざし		
	出会いに満ちるまち	憧れと親しみ	自律する地域経営
	自負と責任		
仮題	くさつ感動交 <sup>ジャンクション</sup> 差点プロジェクト	快遊生活タウンプロジェクト	近隣 SAFE プロジェクト
背景／課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>大都市近郊のベッドタウンとして発展した経緯（3/4が転入者）などを踏まえ、市民文化が成熟の方向へ進みつつある。</li> <li>「出会い」をキーワードとした歴史・文化がある。</li> <li>交通の要衝である。</li> <li>コミュニティ FM が開局予定である。</li> <li>多文化共生に積極的に取り組んでいる。</li> <li>有力な都市機能集積、農業基盤がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>超高齢社会／成熟型社会にあって、都市資源の集約と小地域での生活確保、市内移動の確保が重要。</li> <li>民生部門のエネルギー消費の多くを自家用車等が占める。</li> <li>市域を分断する旧草津川が、広大な低未利用地としてまちなかに残されている。</li> <li>市域に琵琶湖を含む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣自治の体制の刷新、政府機能を担う時代への準備が必要。</li> <li>地域生活の安心を守る上で、地域コミュニティ（地縁／テーマ）の役割が拡大。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿場町・湖上交通拠点など歴史性の活用、コミュニティ FM、新旧交流、多文化共生、都市機能活用、異業種交流 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地活性化、旧草津川活用、小地域の生活基盤整備、公共交通システム（LRT など含む）、低炭素型社会、バリアフリー 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ、市民自治、見守り、地域協働合校、市民センター構想等</li> </ul>
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>出会い、ふれあい・交流、街道 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>快適、魅力的、コンパクト、コンビニエント、コンファタブル 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活、安心、共生、協働、自律 等</li> </ul>
市民会議の主な提案領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消の促進（第3部会）</li> <li>まちづくりセンター等の強化（第4部会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スポットづくり（第2部会）</li> <li>誰もが出かけやすいまち（第2部会）</li> <li>中心市街地活性化（第3部会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民主体の公園づくり（第1部会）</li> <li>まちづくりセンター等の強化（第4部会）</li> </ul>
座・でいすかす検討対象	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ、見守り</li> </ul>

### ミッションⅢ

## 「進行管理タイムスケジュール、行政評価システムとの関係」を考える

### 1. 研究の前提（総合計画の基本計画の役割と構成の変化；確認）

- 従来、基本計画は、まちづくりの総合的推進のため、すべての行政分野について施策を整理するとともに、基本構想期間を踏まえた齊一な進捗管理・評価の基礎となる計画である。
  - 「基本構想」「実施計画」とあわせて“3層型”となるが、本市の場合、「実施計画」が行政評価システム等と一体的なものとなっている。
- 他方、各種部門別の基本計画を策定して施策・事業を進めているなか、総合計画において「行政分野網羅的な計画を策定することの必要性が小さく」また「各種計画との調整事務が煩雑」になってきている。
  - 「基本構想」と「（主要施策の）実行計画」からなる、“2層型”計画が出てきている。

### （基本的な考え方）

- 草津市の次期基本計画は、従来型の計画を基本とし、リーディング・プロジェクトの明確な位置づけを行う。計画期間（3/4/4年）も踏まえて実施計画は策定しない。
- 「リーディング・プロジェクト」「基本計画」について、進捗管理と達成評価を可能とし、市民と共有する成果指標を備える。
- 総合計画の進行管理と財政計画、政策決定の仕組みが連動し、年度単位のスケジュールに適合する。
  - 各基本計画期末に基本計画の進捗評価を行うことが基本である。年度単位の事務事業評価と基本計画の進捗評価を連動させることは困難であり、事務事業評価については、別途、事業のリストラのため簡便な仕組みを整備して行うことが妥当ではないか。

## 2. 研究のステップ

### (1) 仮説の検証

- ・ 行政評価システムの必要性（評価活用の目的）の整理

### (2) 評価システムの提言

#### ① 計画の進捗管理と行政経営システムの連動

#### ② 施策評価の仕組みの検討

……今年度検討範囲の目安

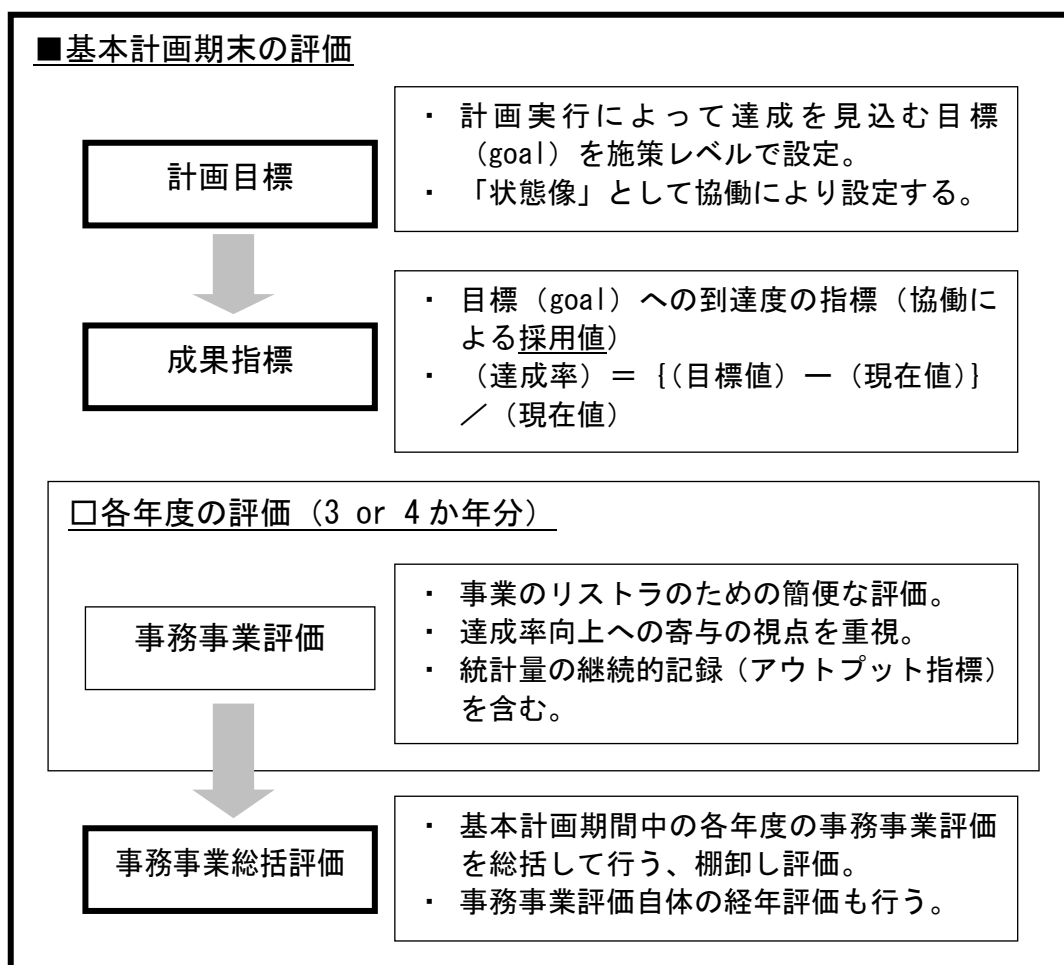
#### ③ 施策目標（数値）の設定と達成評価の検討

……次年度市民会議へ

### (3) 中間報告書のまとめ（3月）

### (4) 最終報告書のまとめ（次年度）

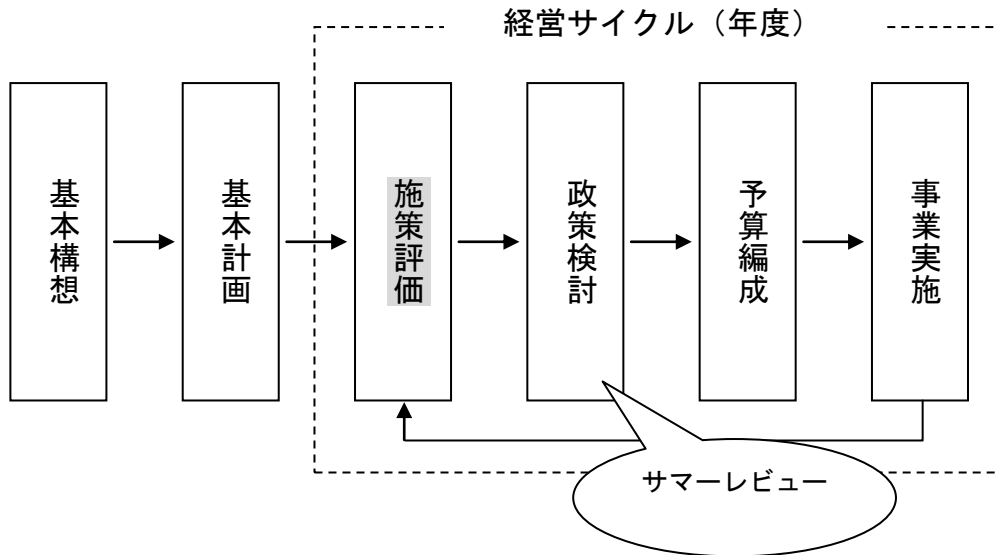
【仮説①：年度単位の経営サイクルと総合計画の評価は別ものとする場合】



## 【仮説②：年度単位の経営サイクルと評価を組み合わせる場合】

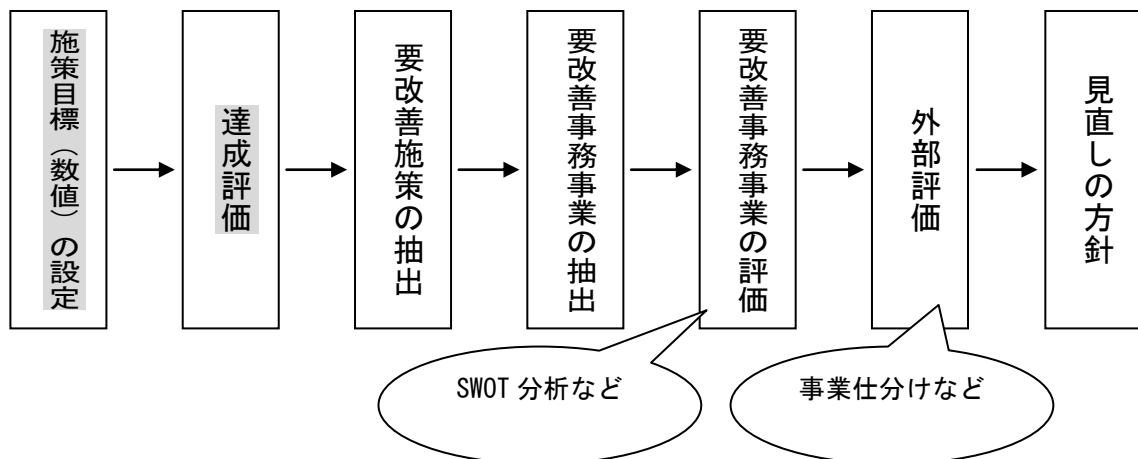
### 1. 計画の進捗管理と行政経営システムの連動

- 計画に基づく施策の評価が、政策判断を経て予算編成、事業実施に結びつく年度単位の経営サイクルを確立する。



### 2. 施策評価の仕組み

- 施策の達成評価をもとに「要改善施策・事業」を抽出し、「見直しの方針」を整理。これを政策検討の基礎資料とする（事務事業評価の事務負担の軽減）
- ただし、達成評価をもとに抽出するため、確度に課題がある。また、画一的な単年度評価とならないよう工夫が必要である。



### 【仮説③：施策目標（数値）の設定と達成評価（仮説①②共通）】

- 事業レベルのアウトプット指標を基礎としながら、施策評価のための指標を設定する。
- 施策ごとの「ゴール（目標となる状態像）」を設定し、現在値と目標値を示す。
- 「ゴール」「現在値」「目標値」について、市民会議などを通じた協働による設定を行う（協働によるまちづくりの基礎）

### 【施策体系検討と併せた研究の視点】

#### （組織体制の最適化）

- 地方分権がさらに進むことで、国の枠組みに縛られることなく、政策・施策に合致した担当部課による組織体制への再編・整理ができる（複数部課にまたがる事業の整理統合）
- 各部課の目標と責任の明確化、マネジメントのしやすさにつながるとともに、将来的な枠予算・枠人事システム導入の基礎となる。
- 現行事務の実際面で課題が多い。

「ビジョン」「理念」「目標」という言葉の使い方の整理

[ビジョン]  
vision : 未来像。

[理念]  
idea : 実現できそうもない理想

principle : 原理原則

[目標]  
goal : 到達できるもの。基本計画に示す。

基本構想等の構成

● 市民の想いや願いなども含むため、将来ビジョンの課題即応はあり得ません。

「課題をすべてやりこなした姿」がビジョンなら、描くほどのものではない。

● 将来のまちの状態像として描く。

将来ビジョン

「将来ビジョン」について

- スタートラインに立って、将来に遠望するまちのイメージです。
- 基本構想では、一般に「ビジョン」「理念(あるべき姿)」「目標」などを描きます。
- 次期基本構想では、「将来に描くまちの姿」を「ビジョン」の位置づけとし、「主要な課題」を踏まえつつ、市民が共有できる「こんなまちになっていたらいいな」と思えるまちの姿を描きます。
- 「主要な課題」と直接的な対応関係があるものではありません。
- まちの特性を踏まえた個性的な内容が求められがちですが、一方で「共有できる」「よきもの」を表現すべき性格から、特段の条件がない限り質的には陳腐な内容になるものです。

まちづくりの基本方向

「まちづくりの基本方向」について

- 構想期間のまちづくりの基本方向です。
- 行政分野を括って柱だてをし、係る取り組みが向かうべき方向を示します(施策の大綱)
- 基本計画の施策体系の柱となります。

・ 基本構想。

課題などを踏まえてビジョンは描くけれど……

主要な課題

草津市の現状

時代の潮流

常に変化するものであり、計画書からの割愛も一般化しつつある。

基本的課題

リーディング・プロジェクト		
短期的目標と 実行計画 (事業レベル)	中期的目標と 実行計画 (施策レベル)	長期的目標=領域ビジョンと ロードマップ
・ 基本計画へ。	・ 基本計画へ。	・ 基本構想へ。
基本計画 (3年)	基本計画 (4年)	基本計画 (4年)
各論的課題を踏まえた体系的施策	各論的課題を踏まえた体系的施策	各論的課題を踏まえた体系的施策

「リーディング・プロジェクト」について

- 構想期間のまちづくりを牽引する施策群です。
- 「選択と集中」の視点を持って設定します。
- 短・中・長期にわけてフレームを描き(ロードマップ)、短期に具体的な取り組みを優先的に行います。
- 構想期間を通じたビジョンとロードマップを基本構想に含み、短期的に達成を図る「目標」を備えて常に更新し着実な進捗を図ります。



## 基本構想のポイント

### 市民と共有する総合計画のポイント

#### ■これから10年のまちづくり、 市民がいちばん知りたいのは……？

##### ●何を（どこを）目指すのか。

→ 将来のまちの姿をあらわすキャッチフレーズを共有します。

##### ●特に何をやるのか。

→ リーディング・プロジェクト（の標題）を共有します。なるべく少なく。

※ 課題等の掲載不要論の主な論拠です。

※ キーワードは少ない方が共有しやすいことも踏まえ、まちづくりの基本方向などは、行政分野のわかりやすさを重視します。

※ 即ち“一目見てわかる内容”を目指します。

調和、  
10万人都市

活力・調和、  
市民都市

活力・魅力、  
感動、生活文化

草津市総合計画の系譜

協働、環境、  
個性、出会い

？

## 総合計画の進捗管理

### 進捗管理について

#### ●基本構想は総括するもの。

→ 基本構想（＝こういうまちづくりをしよう、というビジョンと行動指針）は「構想する」という行為が完結したもの。

→ 構想を受けて策定し、推進を図るものが基本計画であり、「構想の推進」は誤り。当然、構想に進捗はありません。

→ 「構想の実現」もやはり微妙。ビジョンにアクセス（接近）するためのベクトルも含んで「構想」です。

→ 構想の評価とは、その終期にまちづくり全体を市民とともに振り返り、感慨深く総括すること。技術的には、市民アンケートによる満足度評価等になります。

#### ●成果指標による基本計画の進捗管理。

→ 計画目標に対しての進捗を、成果指標を設定して評価し、コントロールします。

→ 目標・指標は市民とともに設定します。

### ■基本計画期末の評価

#### 計画目標

- ・ 計画実行によって達成を見込む目標（goal）を施策レベルで設定。
- ・ 「状態像」として協働により設定する。

#### 成果指標

- ・ 目標（goal）への到達度の指標（協働による採用値）
- ・  $(\text{達成率}) = \{(\text{目標値}) - (\text{現在値})\} / (\text{現在値})$

### □各年度の評価（3 or 4 か年分）

#### 事務事業評価

- ・ 事業のリストラのための簡便な評価。
- ・ 達成率向上への寄与の視点を重視。
- ・ 統計量の継続的記録（アウトプット指標）を含む。

#### 事務事業総括評価

- ・ 基本計画期間中の各年度の事務事業評価を総括して行う、棚卸し評価。
- ・ 事務事業評価自体の経年評価も行う。